

架空企業による支援課題

提案書記載の事業実施内容に基づき、以下提示する架空企業への訪問記録から、どのようにアプローチし、支援を実行するか自由にプレゼンテーションを行ってください。

○(株)西条技研訪問記録

1 訪問者

サイクス：伊藤コーディネーター、市産業振興課：小川係長

2 対応者

代表取締役社長 西条太郎氏（68）

3 訪問趣旨

定例の企業訪問。

合わせて今年度より、サイクスが企業のDX化支援事業を開始することから、市内企業のデジタルに関する状況調査を行っている。

4 企業規模

従業員75名、資本金2,000万円

5 設立

1977年

6 事業内容

精密機械部品の設計、製造及び販売

7 事業・組織概要

- ・精密機械部品の設計・製造からBtoBの取引を行っている。
- ・主な業務プロセスは、受注、原料発注、製造・二次加工業者への委託、検査等
- ・主な取引先は、非鉄金属メーカー、総合科学メーカー、産業機械メーカー、医薬品調製装置メーカーなどで、顧客からの発注内容にあわせ設計・製造
- ・複数の特殊な加工技術を保有しているとのこと
- ・生産製造部が最も多く、設計、製造合わせて40名超。他、品質管理、総務部の順。営業は、社長及び総務部長の2名を決裁者とし、現在3名の中堅職員で回している。情報システム部門は情報系に詳しいとする総務部の職員1名が担当しているとのこと。

8 訪問記録

- ・原材料が高騰しており、経営厳しい状態が続いている。
- ・採用は、今年3名。地元の高校、高専、大学から1名ずつ。知り合いの先生の伝手で、なんとか毎年採用できている状況。
- ・採用者は、全員、製造部門へ配属している。特に専門人材というわけではない。来てもらえる人を採用している状況。
- ・離職率が上がっており、営業リーダーを担当していた総務部職員が先月いっぱい退職。
- ・典型的な多品種小ロットで、取り引き先からの要求も大に小に多い。
- ・受注システムは、社長、総務部長、営業チーム（3名）で共有。営業は、設計や製造に顔の利く、社内の潤滑油的人でなければ務まらないとのこと。
- ・製造及び設計職員には、3か月で基礎を学んでもらうが、1人前になるには3～5年程度は必要。特に、プロジェクト管理や特殊加工（詳細不明）は、ベテラン職員でないと任せられない。生産管理は十数年来、この辺のシステム会社の開発したシステムを使い続けているが、同社も離職率が高いようで心配。
- ・DX化としては、技術継承の課題があり、作業手順書の電子化やスマートグラスを活用した暗黙知の継承に取り組みたい。
- ・また、個人的にはAIに関心がある。最適な活用方法が知りたい。最近、戻ってきた長男（専務）は、大手通信業に勤務経験があり、デジタルに詳しいので、これら課題を任せたい。
- ・本人は、帳簿等の紙資料やエクセルへの手入力の多さ、一部取引先とのファクシミリでの受発注を気にしているようである。このあたりの企業はどこも同じ状況だ。

以上